

科目名	通商実務論Ⅰ	科目コード	1253	単位数	2
担当者名	早川 淑人	開講セメスター	第5セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	C,G	実務経験	無
ナンバリング	MAq506	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

- 授業のねらい
- 現代社会で貿易を理解するには購買手順だけではなく、人種・宗教・価値観・歴史・慣習・気候・金融・リスクマネジメントなども学ぶ必要があります。日々変化する社会背景や政治を理解することも、貿易を学ぶには不可欠です。テキストだけではなく新聞記事を多用し、C級試験合格を目指します。
- 到達目標
- C級試験対策だけではなく、社会で求められる能力である想像力（創造力）、調整力、分析力、話力など、他者・組織との合意形成能力を身に付けるとともに、思考力を養うことを目標とします。
- 授業内容
- 1週目 貿易取引の仕組み
2週目 取引条件の設定とトラブル処理の方法
3週目 貿易に必要な保険と補償内容①
4週目 マーケティング演習（小テスト）
5週目 外国為替の決算方法
6週目 輸出手続きの手順と関係法令①
7週目 輸入手続きの手順と関係法令①
8週目 外国為替相場と変動リスク（小テスト）
9週目 貿易マーケティング・保険
10週目 英文ビジネスレターの基本表現
11週目 英文ビジネス文書の基礎知識
12週目 貿易事例演習（ディベート）（小テスト）
13週目 通商実務論Ⅰ総まとめ講義
14週目 過去問題テスト・解説②
15週目 貿易実務演習①・セメスター末テスト
16週目 通商実務論最終まとめ講義②
- 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間
- 講義予定を参考に事前に1時間はテキストを読み、新聞（できれば日本経済新聞）の経済面・国際面には毎日目を通してください。また講義後は、テキストや配布資料に再度立ち戻り、各種手続の全体像をイメージしながら週3時間以上は復習及び問題演習に取り組んでください。
- 成績評価の方法・基準
- 4項目(合計100点)を基準に評定。①小テスト:10×3回＝30点(評価点＝実得点×10%換算・小数点以下切上)、②末テスト:30点(評価点＝実得点×30%換算・小数点以下切上)、③ミニテスト:30点(評価点＝(実得点総計)÷実施回数×30%・小数点以下切上)、④演習:10×1回＝10点
なお、試験の半数はテキスト以外からの論述式試験です。日常的に新聞を読んでいない学生は、政治面・国際面・消費者物価面・金融面を読み、世の中の流れがわかるようにしておくこと。試験は暗記だけではなく、国際情勢を考えて解く問題を多用します。
- 履修上の留意点
- 通商実務論Ⅱを同時に履修しなければ、検定試験の全範囲は網羅できないため、必ず同時に履修してください。また、毎回必ず【2B以上の鉛筆】（シャープペンシル可）もしくは【黒のボールペン】を持参のこと。
- 課題に対するフィードバックの方法
- 講義時に実施した各テストやレポート等の提出物は、早ければ次回の講義内にてその得点のフィードバックを行います。各提出物の返却は行いません。
- テキスト
- 「最新貿易実務ベーシックマニュアル(改訂4版)」日本貿易実務検定協会編・MHJ出版¥4,510(税込)
上記の他、追加のテキストは講義内で指定します。
※本テキストは、「通商実務論Ⅱ」と同じテキストを使用します。
- 参考書
- 「お辞儀とすり足はなぜ笑われる」内海義雄著 日本経済新聞社¥935（税込）
※本参考書は、「通商実務論Ⅱ」と同じものになります。
※英和・和英辞書は、毎回各自で持参してください。
- 更新日付
- 2025/03/04 10:27